



青木 周弼(あおき しゅうすけ)

享和 3 年(1803)~文久 3 年(1863)



人物紹介

〈諱〉邦彦 〈通称〉大吉・周祐・周弼 〈雅号〉月橋

幕末の萩藩医。周防大島郡和田村(現 周防大島町)の医家に生まれる。外交官の青木周蔵は、周弼の弟である研蔵の養子にあたる。

文化 11 年(1814)、能美友庵・洞庵のうみゆうあん とつあんに漢方医学を学ぶ。天保 2 年(1831)頃、江戸に赴き坪井信道・宇田川榛斎つばいしんどう うだがわしんさい(玄真)の元で蘭法医学およびオランダ語を習得。天保 10 年(1839)、能美洞庵・坪井信道の推挙により、萩藩に仕える。天保 11 年(1840)、医学館の創設を主唱し、教授として漢・蘭医学を教え、後に館長となる。嘉永 2 年(1849)牛痘苗が伝来した際には、主任として藩内に種痘を実施し、天然痘の防止に尽力。コレラ発生時は蘭書を翻訳して処方書を作成し、予防・治療に多大な貢献をした。嘉永 4 年(1851)御添匙医(侍医)を命じられ、藩主の江戸参勤に付き添い、安政 2 年(1855)藩主敬親の御側医となる。安政 6 年(1859)には藩に命じられて『英国志』を翻刻した。

文久 3 年(1863)、萩の自宅にて病没。享年 61 歳。



資料紹介 県立図書館所蔵の青木周弼に関する本



伝記 ※ [] 内は県立図書館の請求記号

- 『青木周弼』 岡原義二 著,大空社,1994.2 [Y289/A 53]
『青木周弼』(青木周弼先生顕彰会 昭和 16 年発行)の原寸を収録。巻頭に書の影印、巻末に附記『青木研蔵伝』、年譜、索引あり。巻末の解説が簡易な伝記としてまとめられている。
- 『防長医学史』 田中助一 著,聚海書林,1984.9 [Y490/L 4]
1951、1953 年に防長医学史刊行後援会から出版された上下巻を一巻にまとめ、誤植・誤記を訂正したもの。上巻に防長医学史、下巻には医人伝がまとめられており、下巻 p297~305 に周弼の詳細な伝記が記されている。

- 『青木周弼の西洋医学校構想』 森川潤 著,雄松堂書店,2013.12 [Y490/P 3]
藩医登用から晩年の西洋医学校構想までの期間の考察。巻末に人名・事項索引あり。
- 『青木周弼と緒方洪庵』 田中助一 著,日本医史学会関西支部,1941.6 [Y289/A 53]
全6頁の簡易な伝記。館内利用資料。



史料

- 二宮陸雄ほか「史料紹介 坪井信友の青木周弼宛書簡」p(24)～(27)
『萩博物館研究報告 第2号』 萩博物館,2007.3 [Y069/N 6] 所収
周弼が江戸の坪井信友(師・坪井信道の長男)に蘭学振興の近況を報告した往信に対する返信。彼らが、医学関連情報等を盛んに交換していたことがわかる貴重な史料。館内利用資料。
- 『防長医家遺墨集』 山口県医師会,1987.11 [Y728/L 7]
p58～59に遺墨と人物紹介。



その他の資料

- 『益田右衛門介親施』 田中助一 著,益田右衛門介親施公百年祭奉賛会,1964.12 [Y289/Ma66]
p13～16「青木周弼との関係」
- 『能美洞庵略伝』 田中助一 著,溪水社,1993.7 [Y289/N 94]
弟子である周弼に関する記述が多々見られ、周弼が死去した際には「哭青周弼」という詩をおくった。
- 『江戸時代の医学』 青木歳幸 著,吉川弘文館,2012.6 [490.21/P 2]
p224～226「長州藩の種痘、青木周弼・研蔵」
長州藩における種痘の普及について簡潔に述べられている。

山口県立図書館は明治維新資料の収集に努めています

山口県立山口図書館 総合サービスグループ
TEL: 083-924-2114 (調査・相談)
FAX: 083-932-2817
ホームページ: <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp/>

このほかにも関連資料がありますので、詳しくはお問い合わせください。

作成日: 令和2(2020)年3月31日